

死体検案認定医申請希望者の研修について(お願い)

平素より認定医制度の運営にご協力をいただきありがとうございます。

さて、標記の研修について、改めてご説明方々お願い申し上げます。

認定医制度は、学会員の卒後教育、生涯教育と自己研修・研鑽を目的としていますが、社会的要請に
応える必要もあります。そのためには研修機会の提供と内容の充実が不可欠です。なにとぞ、本制度の
趣旨をご理解のうえ、関連諸団体とも連携しつつ、認定医申請希望者のための研修会を積極的に開催し
てくださいますよう、ご協力のほどお願い申し上げます。

死体検案認定医の申請のために必要な研修と単位は、[「死体検案認定医制度研修に関する細則」](#)(以
下、細則という)に従って認定されます。特に下記の点にご注意ください。

記

A. 研修会について

1. 原則として、日本法医学会またはその依頼によって本学会に所属する大学・医科大学法
医学教室が主催する下記の「研修会」に参加して単 位を取得する必要があります。(細則
1, 2, 3 および 5 参照)
 - i. 都道府県単位の研修会(1 単位): 大学・医科大学法医学教室の長が主催するも
の。原則として年 2 回実施。
 - ii. 地方会(またはそれに準ずる会)の際にその主管機関が行う研修会(2 単位)。
2. 上記の研修会以外については、他団体(警察医会など)が主催する集会のなかで、法医学
会会員(大学・医科大学法医学教室の長あるいは それに準ずる者)が出向して行った相
当の研修(教育講演など:後記 B 項参照)に参加した場合、認定医制度運営委員会での審
議を経て単位が認定されることにな ります(細則 3 参照)。

B. 研修内容について

前項 A の研修会等において必要とされる研修内容は下記のとおりです。

1. 研修用ビデオ「死体検案の実際」(日本法医学会制作)の視聴
2. 事例検討会への参加(参加者が経験した事例が望ましい)
3. 検案例の剖検見学・立会
4. 基礎的な検案方法についての教育的講演
5. 法医学教室が主宰する検視官・管理官等による講演

なお、大学・医科大学法医学教室あるいは監察医務を行う機関に過去に 2 年以上在籍して法医
学の研修を行った者は、上記研修会等への参加の有無に関わらず「法医学に関する研修を修了」
したものに該当します。

(付)死体検案認定医の資格更新の際には、警察医会(学会形式で開催されてプログラム等の記
録が残されているもの)への出席・発表が習得単位として認定されることを申し添えます。